

佐々木 快 選手・大串 昇平 選手の紹介

青森県弘前市出身、郷里には両親と東北社会人リーグでサッカーを楽しんでいる1歳上の兄がいる。岐阜では、奥様と2歳の娘の3人生活で、快適な岐阜生活をエンジョイしている。岐阜県東濃地方の暑さは全国的に轟いており、初めての岐阜市での夏も今から心配している。食事は海鮮は青森県、肉のおいしさは岐阜県と両県は引き分けていると感じている。

小学生ではヴィペール弘前FC、中学時代はリベロ津軽FCに入団し、体格が大きかったので4年生からセンターバック、中学3年まではフォワードで県の代表選手に選ばれてきた。

高校では、部員約130名の青森山田高校サッカー部に入部。自身は1年生同期50名の中で、試合に出れないCやDチームに所属していたが、3年生の時に初めてAチームに選ばれた。このチームが黒田剛監督の指導の元で第95回全国高等学校サッカー選手権大会で同校初優勝を果たし、全国にその名を轟かせた。今では全国優勝4回の強豪高校として有名校になっている。ちなみに黒田監督は2023年から当時J2のFC町田ゼルビアの監督に転身し、1年でJ1昇格を成し遂げ、現在もJ1トップ集団チームとして活躍中である。

その黒田監督の薫陶を受けた多くの同期たちもJリーグに入団し、現在も佐々木選手を含めて多数活躍するなど、さすが青森山田高校である。その後、新潟医療福祉大学でサッカー部に所属し、北信越大学サッカーリーグでは4年連続優勝。2021年に地元のJ3チームであるヴァンラーレ八戸に入団した。しかし初年度5試合目で8か月間の治療を要する左膝前十字靭帯損傷の重傷を負い、その後の長期リハビリを経て、2022年の後半戦からようやく出場出来るようになった。2023年には34試合に出場し4得点、昨年は33試合で10得点と大活躍をし、今年からFC岐阜に移籍した期待のFW選手である。良い選手たちが揃っている中で、自分の明るいメンタリティを発揮して、体に染み付いた“出来るまでやり抜く力”を発揮すれば、目標は達成できると自信をもっている。また、どんな時も“チャレンジと樂觀”が実現を呼ぶと確信している。



写真：©FC GIFU

さ さ き かい
佐々木 快選手(26歳)

ホームタウン応援大使
本拠市
ニックネーム
ササ

11
FW

兵庫県伊丹市出身、両親と8歳上の兄、4歳上の姉の5人家族。父親も兄も高校時代まで、それぞれゴールキーパーとディフェンスで活躍するなどサッカー一家に育った。

幼稚園からガンバ大阪スクールに入り、小学校時代はガンバ大阪ジュニアチームに所属。中学時代はガンバ大阪ジュニアユース、向陽台高校時代もガンバ大阪ユースに所属し、当時はサイドバックやサイドハーフでプレーしていた。

2019年高校2年生の時に、ガンバ大阪ユースチームから半年間ガンバ大阪U-23のメンバーとしてJ3リーグに所属し、12試合に出場する機会を得て、J3リーグの各チームと初めて対戦した。テクニカルな部分では付いて行けてもフィジカルでは圧倒され、まだまだ体力や経験が不足していると認識させられるなど、非常に良い勉強になった。

その後京都産業大学に進学し、3年生時には関西リーグで優勝したことが一番感激した出来事。同年にはインカレで準優勝。4年生時には、インカレ本戦が強化リーグにまわるかの試合で、先行していたが同点に追いつかれ、最後はPK戦となった場面で、自らがPKを外して敗れてしまった。先行している時こそ、油断や雑念を捨てて真剣にプレーに集中すること、そして最後まで諦めない気持ちが逆転を生むことなどを身をもって学べたことに感謝している。悔しい思い出だが、これからのサッカー人生での大きな学びになったと今では思っている。

昨年関西リーグ3位の好成績を残し、FC岐阜から声をかけて貰いB口の道を決断した。今シーズンは2試合に出場し、ポジショニングや周りとの関わりはできていますが、まだまだ課題があると痛感して練習に励んでいる。FC岐阜では、技術的に高いところを求めて日々頑張っているが、自分も含め、選手たちはそれに向けて厳しく励みつつも、オンとオフをしっかり切り替えて良いチームに向かっている。

目標はFC岐阜の昇格に貢献すること、そして目指す選手は内田篤人さんで、夢は日本代表になること。

温厚な性格で、チームの仲間とご飯や温泉を共にしたり、たまに応援に来てくれる両親や兄妹と過ごしたり、大学時代の友人との再会も楽しみ。もの静かだが、内には大きな夢に向かって秘めたる闘志を燃やしている。



写真：©FC GIFU

おお ぐし しゅうへい
大串 昇平選手(22歳)

ホームタウン応援大使
笠松町
ニックネーム
ぐし

26
DF